

健康しもにた21「8020」推進基盤整備事業報告書

下仁田町

1. はじめに

下仁田町では3歳児のむし歯罹患状況を改善するために、昭和63年度より富岡甘楽歯科医師会の指導のもとに、幼児歯科健診時にフッ化物歯面塗布を導入し、フッ化物を利用した「3歳児のむし歯半減運動」を開始した。その結果乳幼児のむし歯罹患状況を大幅に改善することができた。

このことを契機として、「8020」をめざすために、保育園での集団フッ化物洗口、小中学生の家庭でのフッ化物洗口、40才、50才、70才、リハビリ通所者歯科健診、口腔衛生指導、寝たきり者訪問口腔衛生指導等、子どもから高齢者まで生涯にわたる歯科保健に取り組んできたが、永久歯のむし歯罹患状況をはじめ、成人高齢者の口腔内の状況には大きな課題があることがわかった。

平成14年度には、積極的な健康づくりの推進を図るために、住民参画のもとに「健康しもにた21」計画を策定し、健康しもにた7カ条に歯の健康分野のスローガンを「いつまでも自分の歯・8020を目指しましょう」と定め、歯の健康づくりを体の健康づくりの基盤に据え、計画を推進するための取り組みを開始した。

本事業においては「8020」を達成するために、今後町で目指すべき方向性を検討するための「専門委員会」の設置、「住民の歯へのおもい」を知るために話し合いを重視した学習会の開催および先進地視察を3本柱として実施してきた。

2. 健康しもにた21「8020」推進整備事業の概要

1) 目的

「健康しもにた21」計画に基づき、生涯を通して誰もが食事を楽しみ、健康的な生活が送れるよう、フッ化物を利用したむし歯予防の正確な情報を住民に伝え、フロリデーションが受け入れられる土壌をつくる。

2) 多様な組織との連携による実施

専門部会は町が事務局となり、富岡保健福祉事務所、富岡甘楽歯科医師会、日本口腔衛生学会、下仁田町医師、下仁田町歯科医師、下仁田町薬剤師等、保健医療の専門家で構成した。また学習会は地域の健康づくりのリーダーとなる健康づくり推進協議会、保健推進員協議会、健康しもにた21推進ネットワーク、区長会、議会社会常任委員会、連合婦人会、更生保護婦人会、連合母子会、商工会女性部、母親クラブ連合会および住民の健康づくりに関連のある役場関係六課に呼びかけ実施した。

3) 本事業は専門部会、学習会、先進地視察の3構成とした。

4) 事業経費

事業経費 1,018,620 円の中に助成金 300,000 円を充当した。

項目	事業内容	支出内訳	支出合計
報償費	講師謝金		740,200
	第12回群馬県歯科保健賞受賞講演会	130,000	
	健康しもにた21「8020」推進学習会	138,000	
	その他の報償金 健康づくり推進協議会専門部会員謝金 (健康づくり推進協議会委員準拠)	472,200	
旅費	費用弁償		156,920
	日本大学松戸歯学部視察研修 保健推進員	127,400	
	健康づくり推進協議会専門部会	29,520	
需用費	消耗品費		121,500
	パンフレット代		
	@ 80円×300部	24,000	
	@ 200円×220部	44,000	
	カラーppc		
	@ 970円×25冊	24,250	
再生紙			
@ 450円×25冊	11,250		
視察研修雑費	18,000		
支出合計			1,018,620

3. 健康しもにた21「8020」推進委員会（専門部会）の活動

1) 目的

健康しもにた21「8020」推進委員会要領（資料1）のもとに、健康づくり推進協議会の専門部会として位置づけ、日本口腔衛生学会、富岡甘楽歯科医師会などの専門団体からの学術支援を得て、「8020」を目指すために、下仁田町における公衆衛生としてのフッ化物応用について検討し、健康づくり推進協議会へ提言する。

2) 健康しもにた21「8020」推進委員会（専門部会）構成

委員長	市川智旦	下仁田町歯科医師
委員	小林清吾	日本口腔衛生学会日本大学松戸歯学部
同	田浦勝彦	日本口腔衛生学会東北大学歯学部
同	佐久間汐子	新潟大学医師額総合病院
同	石田覚也	元気県ぐんま21口と歯の健康部会
同	鈴木 廣	富岡甘楽歯科医師会会長
同	萩原吉則	富岡甘楽歯科医師会専務理事
同	黒澤良介	富岡甘楽歯科医師会公衆衛生担当理事
同	入山久美子	富岡甘楽地区歯科衛生士代表
同	落合慶一	下仁田町歯科医師
同	王 愛熙	下仁田町歯科医師
同	青木秀夫	下仁田町医師
同	佐藤 理	下仁田町医師
同	香内信明	下仁田町医師
同	小池敏博	下仁田町薬剤師
同	須賀康治	下仁田町薬剤師
同	小林京子	下仁田町薬剤師
同	大井田文雄	下仁田町薬剤師
同	藤田萬里子	富岡保健福祉事務所長
事務局	島津君夫	下仁田町保健センター
同	佐藤喜一	下仁田町保健センター
同	伊原よし江	下仁田町保健センター
同	鈴木いせ	下仁田町保健センター

3) 委員会開催日

第1回	平成15年11月13日（木）
第2回	平成15年12月16日（火）
第3回	平成16年 2月 6日（金）

4) 健康づくり推進協議会への提言書の提出

平成16年3月25日開催の健康づくり推進協議会へ「8020」達成のための公衆衛生としてのフッ化物応用について「下仁田町におけるフロリデーシヨンの推進」に関する提言を行った。
とした。（資料2）

以下、提言書の中から健康しもにた21「8020推進委員会」の結論を抜粋して掲載する。

【健康しもにた21「8020」推進委員会の結論】抜粋

健康しもにた21「8020」推進委員会はフロリデーションが、有効性、安全性、実用性において、各種フッ化物応用の中で最も優れた公衆衛生的な方法であると認識する。下仁田町においても、フロリデーションが技術的に実施可能な地域においては、住民の理解協力を得て、すみやかに実施されることを切望する。フロリデーションが実施されれば、子どもから成人高齢者自分自身で口腔内の健康管理が十分にできない心身障害者まで、給水地域で生活する住民すべてが、その恩恵を受けることができる。さらに、フロリデーションの実施により、生涯にわたるむし歯予防対策が確立され、今後の8020運動推進のための基盤が整備されたと考える。

現在では、フロリデーションに対して科学的に根拠のある反対論は存在しないが、一部には感情的な反対論や科学的根拠を持たない心配論がある。フロリデーションの実施に当たっては、住民に科学的根拠に基づく正確な情報を十分に提供し、住民の理解協力を得る必要がある。今後は、下仁田町でのフロリデーション実施のために、より多くの住民から支持が得られるように、啓発活動を充実させ継続させていくことが重要である。

4. 健康しもにた21「8020」推進学習会の活動

1) 目的

「健康しもにた21」計画における、歯科保健目標達成のために、住民自身が下仁田町の歯科保健の現状を知り、学習と話し合いの中から、「歯への思い」を共有する事により、「8020」を推進するための課題に気づき、むし歯を予防するためのフッ化物応用の正しい情報を得て、住民自らが保健行動を選択できる力を養う事を目的とした。

2) 学習会開催日および対象者

開催日	対象者	講師	参加数
平成15年 6月21日(土)	全町民	田浦勝彦	351
平成15年 11月13日(木)	専門部会委員	小林清吾	19
平成15年 12月16日(火)	総務課、企画課、水道課 福祉課、教育委員会、保健センター等の課長係長	小林清吾	13
平成16年 1月30日(金)	母親クラブ有志	田浦勝彦	4
平成16年 1月31日(土)	健康しもにた21推進ネットワーク	田浦勝彦	10
平成16年 2月 6日(金)	区長会、社会常任委員会	小林清吾	22
平成16年 2月 6日(金)	保健推進員協議会	田浦勝彦 佐久間汐子	27
平成16年 3月 4日(木)	連合婦人会、更生保護婦人会、連合母子会、商工会女性部、母親クラブ連合会	境 脩	46
平成16年 3月16日(火)	保育園児、小学生保護者	市川智旦	24
平成16年 3月19日(金)	保育園児、小学生保護者	市川智旦	21
平成16年 3月25日(木)	健康づくり推進協議会	境 脩	17
11回			554

3) 学習会のすすめかた

- (1) 町民の歯の現状と「健康しもにた21」歯の目標について説明
- (2) ビデオ「NHKニュース明日を読む」村田幸子解説員
- (3) 講演「むし歯予防のためのフッ化物応用の基礎知識」
- (4) 話し合い

4) 話し合いの中から出されたこと

【歯の健康に対する住民の思い】

- ◎自分の歯は無くなっても、次の世代の人に自分のような思いは味あわせたくないから、地域としてフロリデーションに取り組めたら良いと思う。
- ◎夫の介護の際、おまえの口は臭いといわれ、薬局でうがい薬を購入した。専門的な指導を早く受けたかった。

- ◎私もフッ化物を使いたかった。奥歯が無くなってしまいもう遅いかもしれない。
- ◎むし歯予防を進めれば、結果的に歯周病にも役立つんですね。
- ◎フロリデーションは50年後をみているんだね。
- ◎水道水フッ素化を利用すれば、健康な歯を残すことは誰でも出来ることになる。
- ◎フッ素を利用してきたので子どもにむし歯ができなくてよかった。
- ◎大変勉強になり残りの歯を大切にしたいと思う。

【水道利用の効果と必要性に対する住民の意識】

- ◎むし歯予防にはフッ素が効果的だと思う。
- ◎海水と同じならとればもっと健康になる。
- ◎一番よいフッ化物利用法はフロリデーションだね。
- ◎イオン水を活用している人がいるのだから、水道水をもっと上手に使っていったら良い。
- ◎フロリデーションの費用は医者にかかることを考えたら安い。

【フロリデーションの普及啓発に対する住民の意識】

《学んだことをみんなで啓発》

- ◎学んだことを何回でも周囲に伝えていく。
- ◎良いことはみんなで知らせていくことが大事。
- ◎みんなで推進して行くこと、それぞれの会で進めていく。
- ◎良いことはみんなが進めていきたい。
- ◎私もフロリデーションのチラシ配りをする。
- ◎認識を深める人が増えていくことが必要。
- ◎データで教えてもらおうと他の人に自信を持って安心して話せる。

《経済性からの啓発》

- ◎フロリデーションを広めるためにはお金のことから入っていったらどうだろうか。
- ◎安全性と効果を多くの人へ啓発》
- ◎フッ素の安全面や効果をもっと多くの人に知らせていった方がよい。
- ◎この情報をもっと多くの人に知らせていく必要がある。

《子どもの実績からの啓発》

- ◎子どもから家庭、大人へと広げる。
- 《会員募集による啓発》
- ◎フロリデーションを進める会員を募集するとよい。

《疑問に答える体制づくり》

- ◎フッ素に慣れていない人のための単純な疑問に答えていく。
- ◎私は保健推進員をしているが、フッ素について良く知らないので、近所の人に害があるかとか聞かれたが良く答えられなかった。

《住民代表の議員さんへの啓発》

- ◎住民代表の議員さんに勉強してもらうことが必要。

- ◎議員さんが理解しないと進まないの、議員さんに勉強してもらうことが重要。
- ◎推進員はいろいろな研修を受けている。もっと重要ポストの議員さんたちに広めてもらいたい。

《住民からの意見を求める活動》

- ◎催眠療法にかかったようだが、全員にわかりやすく説明しないととても難しい、行政は説明責任がある。いろんな意見を住民からいただいてすすめる必要がある。

《厚生省への働きかけ》

- ◎大事なのは解るが一般の人に理解してもらうのは難しい。フッ素洗口剤は引き出しにしまわれている家もある。また水についてこだわりがある人もいるのでどうだろうか。厚生省などがもう少し働きかけて欲しい。

《保健センターでの啓発活動》

- ◎保健センターはわかりやすいチラシを配って短時間でよいから、早くみんなに知らせていくことが必要。
- ◎間違っただけ情報が流れてからそれをうち消すのは大変なこと、早く正しく知らせるようにした方がよい。
- ◎正しく知らせるためには、小さな地域ごとの学習会が必要。
- ◎時代が予防に向かっている、良い方法を見いだしていくための第一歩。
- ◎町で強制的に押しつけるものではない、住民に十分説明し納得して実現していくもの、町には水道が28か所あるがそこを基地にしてさらに勉強会をしていく。
- ◎町民から信頼を受けている議員さん町民代表の区長さんには町民へ正しい情報提供をしていただき、大きなご支援とご指導をいただきたい。

【フッ化物についての住民の認識】

- ◎お茶の中にフッ素がふくまれている事や、自然界に多く存在することを知っている。
- ◎食べ物の中にこんなにフッ素が入っているとは忘れていた。

質 問

【フロリデーションと安全性について】

《フッ素濃度調整について》

- ◎自然界にあるフッ素を調整すると言うことですが詳しく教えてください。

《温度による変化》

- ◎フッ素は温度によって変化しないのですか？

《飲み込む量による害》

- ◎どのくらいの量を飲むと害がでるのですか？

《体に及ぼす害》

- ◎水を飲んで体に及ぼす影響はないのですか？
- ◎いろんな体質の人でも大丈夫ですか？
- ◎フロリデーションをした場合、個人差の影響はないのですか？

《発ガン性》

- ◎がんのことは心配ないのですか？
- ◎発ガン性、科学的なものはどうですか？

《国の方針について》

- ◎世界で行われていることなら国がなぜやらないのですか？
- ◎初めてやる場所ですね？

【費用について】

- ◎水道料金はどのくらいかかるのですか？

【反対者の理由について】

- ◎反対者の理由は何ですか？
- ◎フッ素濃度の調節、完璧とは限らない、反対している人たちがいる。水道水に入れたら、歯に塗る物を何故飲むのかという疑問がでるが？

【はみがきとむし歯予防について】

- ◎はみがき時間は？
- ◎はみがきは食前と食後のどっちがいいですか？
- ◎きちんと歯を磨けばむし歯は防げると思うがどうですか？
- ◎昔からはみがきが良いと言われているがどうですか？
- ◎毎日フッ素洗口をしているが、歯みがきを忘れるのとフッ素洗口を忘れるのとではどちらがむし歯予防にとって不利になりますか？
- ◎はみがき剤はどのような物がいいのか歯科医師に聞いたら、から磨きをすすめられたことがある。

【その他】

- ◎キシリトールガムはむし歯予防に効果的ですか？
- ◎はみがき後の洗口剤は？
- ◎塩にもフッ素が入っているなら塩のうがいでいいですか？
- ◎推進員の視察研修で日大松戸歯学部に行ったとき、歯科学生がフロリデーショーンをすると歯科医が困ると言うがそんな事は無いと話していた。

5. アンケートの実施

1) 目的

学習会後、住民のフッ化物に対する理解度を確認し、今後の学習会に活かす。

2) アンケート用紙 (資料3)

3) アンケート実施日 平成16年1月30日、31日、2月6日、3月4日

4) 対象者

Aグループはフッ化物応用について、比較的学習経験のある者31人

保健推進員、健康しもにた21推進ネットワーク、母親クラブ有志

Bグループは比較的学習経験の少ない者35人

区長、社会常任委員、連合婦人会、更生保護婦人会、商工会女性部、連合母子会、連合母親クラブ

5) アンケート集計

A : 比較的学習経験のあるグループ 31人

B : 比較的学習経験の少ないグループ 35人

質 問	区分	は い	いいえ	わからない	未記入	合 計
フッ素は	A	29 (93.6)	1 (3.2)	1 (3.2)		31 (100.0)
自然界に存在する	B	31 (88.6)			4 (11.4)	35 (100.0)
	計	60 (90.9)	1 (1.5)	1 (1.5)	4 (6.1)	66 (100.0)
フッ素は	A	30 (96.8)		1 (3.2)		31 (100.0)
海水に存在する	B	31 (88.6)			4 (11.4)	35 (100.0)
	計	61 (92.4)		1 (1.5)	4 (6.1)	66 (100.0)
フッ素は	A	30 (96.8)		1 (3.2)		31 (100.0)
食品に含まれる	B	27 (77.1)	3 (8.6)	5 (14.3)		35 (100.0)
	計	57 (86.4)	3 (4.5)	6 (9.1)		66 (100.0)
フッ素入り歯磨剤	A	30 (96.8)	1 (3.2)			31 (100.0)
を知っている	B	31 (88.6)	4 (11.4)			35 (100.0)
	計	61 (92.4)	5 (7.6)			66 (100.0)
フッ素洗口	A	29 (93.5)	2 (6.5)			31 (100.0)
を知っている	B	27 (77.1)	7 (20.0)		1 (2.9)	35 (100.0)
	計	56 (84.9)	9 (13.6)		1 (1.5)	66 (100.0)
	A	29 (93.5)	2 (6.5)			31 (100.0)
フロリデーション	B	20 (57.1)	15 (42.9)			35 (100.0)
を知っている	計	49 (74.2)	17 (25.8)			66 (100.0)
フッ素はむし歯	A	31 (100)				31 (100.0)
予防効果がある	B	30 (85.7)		5 (14.3)		35 (100.0)
	計	61 (92.4)		5 (7.6)		66 (100.0)
フッ素は	A	28 (90.3)	1 (3.2)	2 (6.5)		31 (100.0)
高齢者のむし歯予	B	25 (71.4)	3 (8.6)	6 (17.1)	1 (2.9)	35 (100.0)
防に効果がある	計	53 (80.3)	4 (6.1)	8 (12.1)	1 (1.5)	66 (100.0)
フッ素濃度		0.1 ~ 0.3	0.6 ~ 0.8	1.5 ~ 1.7		
フロリデーション	A	10 (32.2)	16 (51.6)	2 (6.5)	3 (9.7)	31 (100.0)
のフッ素濃度	B	15 (42.9)	11 (31.4)	5 (14.3)	4 (11.4)	35 (100.0)
	計	25 (37.9)	27 (40.9)	7 (10.6)	7 (10.6)	66 (100.0)
	A	29 (93.6)	1 (3.2)	1 (3.2)		31 (100.0)
フロリデーション	B	24 (68.6)	3 (8.6)	7 (20.2)	1 (2.9)	35 (100.0)
は安全である	計	53 (80.3)	4 (6.1)	8 (12.1)	1 (1.5)	66 (100.0)
1人当り費用		100円	1000円	10000円	わからない	
フロリデーション	A	25 (80.6)	1 (3.2)	3 (9.7)	2 (6.5)	31 (100.0)
の1人当り費用	B	22 (62.8)	3 (8.6)		10 (28.6)	35 (100.0)
	計	47 (71.2)	4 (6.1)	3 (4.5)	12 (18.2)	66 (100.0)
専門団体数		15	50	150		
フッ素利用を認め	A	3 (9.7)	3 (9.7)	24 (77.4)	1 (3.2)	31 (100.0)
る専門団体数	B	6 (17.1)	7 (20.0)	13 (37.2)	9 (25.7)	35 (100.0)
	計	9 (13.6)	10 (15.2)	37 (56.0)	10 (15.2)	66 (100.0)

6) アンケート結果から得られたこと

(1) 「自然界、海水、食品、歯磨きなどに、フッ素があると思うか」の質問では、Aグループは 93.6 %以上の 高率で「はい」と答えているが、Bグループは「いいえ」「わからない」「未記入」が多く「はい」と答える率が低い。

(2) 「フロリデーションを知っているか」の質問では、Aグループでは 93.6 %以上が「はい」と答えているが、Bグループでは 57 %と低い。

(3) 「フッ素はむし歯予防効果があるか」の質問では、Aグループでは 100 %が「はい」と答えているが、Bグループでは 85.7 %となっている。

(4) 「高齢者の歯の健康に効果があると思うか」の質問 では、Aグループでは 90.3 %が「はい」と答えているが、Bグループでは 71.4 %となっている。

(5) 「フロリデーションの濃度」の質問では、Aグループは 51.6 %、Bグループでは 31.4 %の正解率でありA、Bとも低率であった。

(6) 「安全であると思うか」の質問では、Aグループでは 93.6 %が「はい」と答えているが、Bグループでは 68.6 %と低い。

(7) 「フロリデーションの一人当たり費用」の正解率はAが 80.6 %で、Bは 62.8 %と低い。

(8) 「フロリデーションなどのフッ素利用を認めている専門団体の数」の正解率はAでは 77.4 %、Bでは 37.2 %と低い。

6. フォーカスグループインタビューの実施

1) 目的

歯と口の健康づくりに焦点をあて、住民自身が自分の歯と口の現状を認識し、今後どのような取り組みが行われたら良いと考えるか、住民の意識を調査し問題点を把握する。

2) 実施日および対象者

実施日	対象者	講師	参加者数
平成 15 年 12 月 16 日	保健推進員協議会役員	佐久間汐子 田浦勝彦	5
平成 15 年 12 月 17 日	「健康しもにた 2 1」歯と母子のグループ、母親	田浦勝彦	6
2 回			11

3) インタビューから得られたこと

【歯の健康に対する住民の思い】

- ◎入れ歯になってくるとね、自分たちは遅いけど、子供たちにはそのような経験はさせたくないね。
- ◎自分の歯に対してよく勉強しましたが、今まで何もわからなくてばかなことをやっていたんだなあと後悔しています。
50歳代になってから、奥歯がむずむずしてきた。その内うずうずしている歯がひどくなり、かみ合わせもできなくなって歯を一本抜きました。一本抜いたら他にもいろいろ変わったことに驚きました。15年ぐらいの間に4本の歯を抜きましたが、むし歯ではなくて歯茎が悪い為に歯を無くしたことが誠に今もって残念です。
今は食事を済ませたり、物を口に入れたりした時は必ず歯を磨くようにしています。現在21本の歯がありますのでそれを大事にして行きたいと考えています。
- ◎栄養と歯について勉強しましたが、食べるためには歯も大事です。私は嫁に来る前は丈夫な歯をしていましたが、子どもを生む度に順々に歯が悪くなっていきました。今は恥ずかしい状態なのです。
大きな農家に嫁いで、子どもができると、子どもと家のことで手一杯で自分の歯のことにはかまっておれなくなったんです。自分のことは抜きで、それで歯がガタガタになって、入れ歯でもう半分以上の歯がありません。残っている歯を無くさないようにと思っています。
- ◎歯並びが悪く、また顎関節症になったりして、歯と口にはかなりコンプレックスをもっています。歯に関心はあり、歯石除去にも通院したいのですが、毎回歯並びの事を言われるので、敷居が高くなっています。

【歯の健康状態の変化】

- ◎20年前の子供は歯ブラシを遊び道具に使っていたが、生活の一部になり、抵抗なくやれる。家庭でお母さんたちも一生懸命取り組んでいるためはみがきは

習慣になっているからだと思う。

年々むし歯の子どもも少なくなり歯医者さんに治療で通う子の他に、定期健診に通っている子どももいる。20年前にはもうどうしようもなく「お母さん早く歯医者さんに言った方がいいですよ」といっていたので、そこが違うところ。

- ◎下仁田では、3歳児でむし歯がないのは当たり前で、表彰されない子の方が少ないようになっていて、表彰されないと逆に目立つんで、むし歯について本気に成らざるを得ません。
- ◎子供たちが歯に関心を持ってきていますね。

【フッ素のむし歯予防効果】

- ◎ひどいむし歯が減ってきた。歯科健診の時にも褒められて年々良くなってきていると高く評価されている。効果がある。
- ◎家の孫も使ってやっているので効果があると思う。
- ◎量販店のわかりやすいところにレノビーゴが置いてあるし、これだけクローズアップされて必要なものでもあるし、それだけ効果があるんだなあと思っている。

【フッ素洗口についての課題】

- ◎保育園の時に毎日の習慣としてはみがきの後にフッ素をする習慣がきちんと出来上がっているのに、小学校に入ると続けられないのが残念。
- ◎家庭で出来る家はいいが出来ない家もある。集団でやることのすばらしさはみんなが出来るということ。子供たちの年齢が上がるほど自分たちの意識で取り組む形になる。高校くらいまでそのような環境をつくり、その後は地域で取り組めば。現状ではそのような環境はないので、放っておけば、先行きは20本残らないのではないか。
- ◎やっている人は効果が上がっているじゃないですか。中学になるとやらなくなりますね。
- ◎小学生はやっていますといい、保護者も熱心ですが、中学生になるとやらない。洗口剤はどうしてると聞くと冷蔵庫にしまっているという。

【フロリデーションについての意識】

- ◎水道水に入れていただきたいな—と思っています。いろいろ研究して、それが良いとわかっているんだから。みんながそれで良くなればね。
- ◎若いお母さん方は幼児健診でフッ素の話聞いてフッ素をうけいれてきた。保育園でのフッ素洗口も10年になる。今はそれが普通の生活の一部として、子育ての流れの一つとしてお母さん方が取り組んでいるので抵抗はないと思う。ですから水道水の中に入れる事に対しても、普通の生活の中で、健康を害する物でなければ、十分に受け入れられる現状になってきているのではないかと思う。
- ◎フロリデーションについては、研究されて良いとわかっていることだから町でどんどん進めて頂くと良い。ずっと健康が守れる。

- ◎将来的には国で方針を固めてどこでもフッ素入りの水が出るのがベター
- ◎下仁田町は水道が一箇所ではない。係が行って入れてもらわなければならない。
(市町村合併にふれて) みんな水道が違うからそれが大変。
- ◎フッ素の入った水を自然に飲むことによって、体の中から歯に効果があることが良い。
- ◎町でしてくれると良い。一人100円くらいで出来ると聞いたので、それくらいなら町で予算が取れないものかと思った。
- ◎飲むと自然に丈夫になる。体も歯も丈夫になるから、その方がいいなと思いました。
- ◎書いた物を見るとわかりますが、それでも不安な人があってね。みんなということになると、反対する人もいるのでは？心配なんではないですか？心配は無いと言われるけれど、体に入った場合に害があるか無いか。若い人は納得してくれるかもしれないけれど年寄りも。入ってもお小水になって出ちゃうんですよね、余分なものは。水道水に入れるとなると全部ですよね。お茶からなから。いいことはわかっているけれど年寄りの人を納得させるのは難しいかなと思って。

【フッ素洗口とフロリデーションの違いについて】

- ◎フッ素洗口は吐き出すが、フロリデーションは飲み込むので不安がある。
- ◎町中のみんなが賛成すれば、口から入る方がいいなと思うが、みんなが承知するのは大変だから、自分はフロリデーションの方がいいけれど、フッ素洗口の方が手っ取り早いのではないかな。
- ◎お年寄りから子どもまで、みんなが賛成するというのは大変だから子どもだけでもフッ素洗口の方がいいのかな。

【歯の健康について普及啓発】

- ◎健康しもにた21の委員として、歯の健康について一般に知らせるように、認識を持ってもらうようにしたい。

【その他】

- ◎レノビーゴが安くなる様に補助がでると良い。
- ◎子供たちにフッ素を配っていますが、私たちにも配られたらなあと思う。

7. 日本大学松戸歯学部視察研修の実施

実施日	対象者	参加者数
平成15年10月10日	保健推進員	49人
平成16年3月12日	8020専門部会	10
合計		59

日本大学松戸歯学部へ2日間の研修が実施できた。保健推進員研修ではフロリデーシヨンの講義とフロリデーシヨン装置について研修し、歯学部学生と歯について困っていること、むし歯予防、フロリデーシヨンについてグループワークをおこなった。

専門部会研修は平日のため参加者が少なかったが、フロリデーシヨンの講義の後フロリデーシヨン装置について研修し、フッ素濃度調整が正確に行われているか実際に実験を行った。

8. 考 察

1) 学習会における住民の意識についての考察

歯の健康に対する住民の思いは「自分の歯は無くなっても次の世代の人に自分の様な思いはあじあわせたくない」に代表される。学習することによりフロリデーションの有用性への認識が高まり、フロリデーションの啓発についても「学んだ私たちが地域みんなに知らせてゆこう」という意識も高まっている。また住民の中には「住民代表である議員さんに勉強してもらうことが重要」との認識もある。

このことから、繰り返しの学習と子供たちのむし歯予防の実績からフッ化物に対する認識は高まっているといえる。

反面、質問の中では、「飲み込む量」、「体に及ぼす影響」、「発ガン性」等、フロリデーションの安全性への質問や歯磨きとむし歯予防効果についての質問が多く出された。このことから不安や疑問にきめ細かく対応できる今回のような、小集団での学習会の提供が、住民意識の変容の為に必要であると考えられる。

2) アンケート結果についての考察

フッ化物応用について学習経験のあるAグループの方が、学習経験の少ないBグループに比べて正解率が高い。

「わからない」「未記入者」の割合は学習経験の少ないBグループの方が多い。

このことから「住民自らが選択する力をつける」ためには正しい情報提供する機会が必須の条件であると考えられる。

3) フォーカス・グループ・インタビューについての考察

住民自身の「思い」である「入れ歯の体験を子どもたちにさせたくない」をキーワードにして、住民の思いを良く聞く事が大切であり、歯に対する思いを共有する中で、むし歯予防と歯周病予防について住民が考える場を提供していくことが必要であると考えられる。

また、フッ化物応用のむし歯予防効果については全員が効果があると認識しているが、飲み込む事への不安がある。それはフッ素濃度と量の関係が理解できれば解消されることが考えられる。むし歯予防のためのフッ化物応用の原点であるフロリデーションについては、ちょうど良い濃度と量について、わかりやすく正しく知らせることにより不安を解消していくことが重要であると考えられる。

9. 評 価

1) 8020推進委員会（専門部会）の開催

健康づくり推進協議会の専門部会として8020推進委員会を開催し提言ができた。また委員構成に当たっては町内の医療関係者、富岡甘楽歯科医師会の協力のもとに、専門学会である日本口腔衛生学会に学術支援を要請し、学会に所属する大学関係者3名に委員を委嘱し、幅広い学術情報の提供を受けることが出来た事は画期的な事である。

2) 学習会の開催

口腔衛生学会の先生方から、小集団で直接わかりやすく正しい情報を得る機会を得たこと及び区長会や社会常任委員会、保健センター以外の他課との連携及び、幅広い組織と多くの住民参加による双方向の学習会ができた事は大きな成果といえる。

3) フォーカス・グループ・インタビューの実施

フォーカス・グループ・インタビューを行った結果、歯の健康についての「住民の思い」と「意識」を知ることができ、これからの学習会の持ち方への方向性を得る事ができた。

4) 「健康しもにた21」の実践にむけて

「健康しもにた21」の基本方針では、「一時予防の重視」と、「多くの組織との連携」、「個人の健康づくりをしやすくするための環境づくり」が唱われている。

今回、財団法人「8020推進財団」の助成金を頂き、取り組んできた「8020推進基盤整備事業」は、まさにこの基本方針どうりに実施できた。

10. おわりに

この事業実施にあたり、日本口腔衛生学会をはじめ、元気県ぐんま歯と口の委員会、富岡甘楽歯科医師会、富岡甘楽歯科衛生士会、町内の医師、歯科医師、薬剤師の先生方、富岡保健福祉事務所長の皆様には、昼間の仕事を終えた後、夜の専門委員会に出席していただき、下仁田町民の歯の健康づくりのために熱心に検討して頂き、今後目指すべき方向性を提言していただきました。

また区長会、社会常任委員会をはじめ、住民の皆様には自分の歯の健康と健康な町づくりを目指すために、寒い冬の日にも熱心に学習し、熱心に話し合いをしていただきました。

今後の「健康しもにた21」歯の健康づくりの目指すべき方向は、住民皆様の「歯への思いを大切に」して、「専門委員会から頂いた提言」をもとに、学習会と話し合いの機会をきめ細かく設け、不安を取り除きながら、住民自らが保健行動を選択するための支援をして行きたいと考えています。

助成いただきました、財団法人8020推進財団をはじめ、熱心にご指導頂きました先生方及び熱心に学習し話し合いをしていただいた住民の皆様へ厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

健康しもにた21「8020」推進委員会次第

日 時：平成15年11月13日（木）午後1時30分

場 所：下仁田町保健センター1階集団検診室

（専門部会）8020推進委員会構成

所 属	氏 名	出欠	所 属	氏 名	出欠
日本口腔衛生学会	小林 清 吾		下 仁 田 町 医 師	青 木 秀 夫	
	田 浦 勝 彦			佐 藤 理	欠
	佐久間 汐子	欠		香 内 信 明	
元気県ぐんま21 口と歯の健康部会	石 田 覚 也	欠	下 仁 田 町 薬 剤 師	小 池 敏 博	
	富岡甘楽歯科医師会	鈴 木 廣			須 賀 康 治
萩 原 吉 則				小 林 京 子	
富岡甘楽歯科衛生士	黒 澤 良 介		富岡保健福祉事務所	大 井 田 文 雄	
	入山久美子		健康づくり推進協議会	藤 田 萬 里 子	欠
下仁田町歯科医師	市 川 智 旦		下 仁 田 町 長	関 口 勇	
	中 島 久		下 仁 田 町 保 健 セ ン タ ー	金 井 康 行	
	落 合 慶 一	欠		島 津 君 夫	欠
	王 愛 熙			佐 藤 喜 一	
				伊 原 よ し 江	
			鈴 木 い せ	欠	

1. 開 会

2. 委嘱書交付

3. 委員長選出（委員の互選）

4. 挨拶

委員長

下仁田町健康づくり推進協議会長

下仁田町長

5. 議 事

(1) 報告事項：健康しもにた21「8020」推進基盤整備事業について趣旨説明

1). 事業目的

健康しもにた21に基づき「8020」を推進し、生涯を通して誰もが食事を楽しみ、健康的な生活が送れるよう、フッ化物を利用した、公衆衛生としてのむし歯予防の正確な情報を住民に伝え、フロリデーションが受け入れられる環境を整える。

2). 事業内容

◎ 公衆衛生としてのフッ化物応用をどのようにすすめてゆくか、健康づくり推進協議会への提言および住民を主体としたフッ化物応用学習会の開催など

(ア) 8020推進委員会の開催・・・3回

(イ) 地区住民及び関係者の学習会・・・3回以上

(ウ) 視察研修・・・・・・・・・・・・・・・・日本大学松戸歯学部

(2) 研 修「むし歯予防におけるフッ化物応用の基礎知識について」

日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会委員長 小林清吾先生

(3) 検討事項

「8020」をめざして、公衆衛生としてのフッ化物応用をどのように進めていくか

(4) その他

次回開催日程について 平成 年 月 日 () 時

6. 閉 会

健康づくり推進協議会専門部会（健康しもにた21「8020」推進委員会）要領
（設 置）
第1条 第3次国民健康づくり運動の地方計画である「健康しもにた21計画」に基づき、歯の健康づくりの方策を審議、検討し、住民の健康増進を図るため、健康しもにた21「8020」推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（所掌事項）
第2条 委員会は次に掲げる事項を審議検討する。
1 健康しもにた21「歯の健康」基本方針に基づき、むし歯予防の目標を達成するために、公衆衛生としてのフッ化物の応用について、効果的な推進計画を審議検討する
（委 員）
第3条 委員は次の各号に掲げる者の内から会長が委嘱する
1 専門機関関係者
2 町内保健医療関係者
（委員の任期）
第4条 委員の任期は平成16年3月31日までとする。
（委員長）
第5条 委員会に委員長をおき、委員の互選によってこれを定める。
2 委員長に事故ある時、または委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指定する委員がその職務を代理する。
（会 議）
第6条 委員会は会長が招集する。
2 委員会の議長は委員長が務める。
（庶 務）
第7条 委員会の庶務は、保健センターにおいて処理する。

平成16年3月22日

下仁田町健康づくり推進協議会
会長 関口 勇 殿

健康しもにた21「8020」推進委員会

委員長 市川 智 旦



「下仁田町におけるフロリデーションの推進」に関する提言

標記について、別紙のとおり意見をまとめましたので提言いたします。

健康しもにた21「8020」推進委員会構成

委員長	市川智旦	(下仁田町歯科医師)
委員	小林清吾	(日本口腔衛生学会 日本大学松戸歯学部)
同	田浦勝彦	(日本口腔衛生学会 東北大学歯学部)
同	佐久間汐子	(日本口腔衛生学会 新潟大学医歯学総合病院)
同	石田覚也	(元気県ぐんま21 口と歯の健康部会)
同	鈴木 廣	(富岡甘楽歯科医師会 会長)
同	萩原吉則	(富岡甘楽歯科医師会 専務理事)
同	黒澤良介	(富岡甘楽歯科医師会 公衆衛生担当理事)
同	入山久美子	(富岡甘楽地区歯科衛生士代表)
同	落合慶一	(下仁田町歯科医師)
同	王 愛熙	(下仁田町歯科医師)
同	青木秀夫	(下仁田町医師)
同	佐藤 理	(下仁田町医師)
同	香内信明	(下仁田町医師)
同	小池敏博	(下仁田町薬剤師)
同	須賀康治	(下仁田町薬剤師)
同	小林京子	(下仁田町薬剤師)
同	大井田文雄	(下仁田町薬剤師)
事務局	島津君夫	(下仁田町保健センター)
同	佐藤喜一	(下仁田町保健センター)
同	伊原よし江	(下仁田町保健センター)
同	鈴木いせ	(下仁田町保健センター)

「下仁田町におけるフッ化物の推進」に関する提言

1.はじめに

健康しもにた21「8020」推進委員会は、下仁田町健康づくり推進協議会 関口勇 会長の委嘱を受け、平成15年11月13日、第1回の委員会を開催した。以来、平成16年2月6日までに3回の委員会を開催し、8020運動を推進するための基盤となるむし歯予防のための公衆衛生的なフッ化物の利用、特にフッ化物利用の原点である「フッ化デフラクション」(水道水フッ化物濃度調整)の実施の可能性について検討を重ねてきた。

その間、町職員、区長会、保健推進員、「健康しもにた21ネットワーク」などを対象にした学習会を開催し、参加者との意見の交換を行ってきた。また、住民を対象にした「フォーカス・グループ・インタビュー」を実施し、住民の意識を調査するとともに問題点の把握に努めてきた。

また、今回の委員会構成に当たっては、専門学会である日本口腔衛生学会に学術的支援を要請し、学会に所属する大学関係者3名に委員を委嘱し、幅広い学術情報の提供を受け委員会の協議を進めてきた。

本委員会の「下仁田町におけるフッ化物の推進」に関する提言が、今後の健康しもにた21ならびに8020運動の推進に貢献できることを期待している。

委員会開催日

第1回 平成15年11月13日(木)

第2回 平成15年12月16日(火)

第3回 平成16年 2月 6日(金)

学習会開催日

平成15年12月16日(火) 町職員

平成16年 1月30日(金) 母親クラブ有志

平成16年 1月31日(土) 健康しもにた21ネットワーク

平成16年 2月 6日(金) 区長会

平成16年 2月 6日(金) 保健推進員

フォーカス・グループ・インタビューの実施日

平成15年12月16日(火)

平成15年12月17日(水)

2. 下仁田町の歯科保健対策の現状

下仁田町では、昭和 63 年度からフッ素塗布（フッ化物歯面塗布）を歯科健診に導入し、フッ化物を利用した「3 歳児のむし歯半減運動」を開始し、乳歯のむし歯有病状況が大幅に改善した。さらに平成 5 年度からは、町内の全部の保育園で、4, 5 歳児を対象にフッ素洗口（フッ化物洗口）を開始し、毎年 95% 以上の実施率で継続してきた。その結果、小学校低学年の永久歯のむし歯も大幅に減少した。しかし、健診未受診者にむし歯が多い傾向があり、予防に無関心な保護者の子供への対策が課題として残っている。

小中学校でのフッ素洗口実施については、平成 7 年に 三師会（富岡甘楽歯科医師会、富岡市甘楽郡医師会、富岡甘楽薬剤師会）の連名で陳情があり、下仁田町議会で採択された。保護者からの要望もあり、平成 7 年度より歯科検討会を開き、学校でのフッ素洗口を検討したが、教職員の強い反対があり実施できなかった。そこで、小中学生を対象にした「家庭におけるフッ素洗口」を、町で予算化して現在実施している。しかし、家庭におけるフッ素洗口の申込者は約 80% で、そのうち毎日実行できている人の割合は 30% 弱という状況である。この状況を改善し、より効果の上がる方法を検討するため「フッ化物を利用したむし歯予防とフロリデーション」について、議会の視察研修、保健推進員の視察研修等を実施してきた。下仁田町では、生涯を通じた歯科保健対策の確立をめざしているが、就学前の歯科保健対策以外は、十分な対策が実施されていないのが実状である。

2003 年 8 月、8020 財団から「平成 15 年度歯科保健活動助成金」30 万円が、健康しもにた 21「8020」推進基盤整備事業に対して交付された。事業の目的は、「健康しもにた 21 計画に基づき、生涯を通して誰もが食事を楽しみ、健康的な生活が送れるよう、日本口腔衛生学会及び地区歯科医師会の学術的支援を受けながらフッ化物を利用したむし歯予防の正確な情報を住民に伝え、フロリデーションが受け入れられる環境を整備する」ことである。

3. 国際的なフロリデーション実施状況

1945 年、米国のグランドラピッズ市で開始されたフロリデーションは、その後、世界保健機関（WHO）、国際歯科連盟（FDI）などの 150 以上の専門機関の支持を受け、多くの国に普及拡大してきた。

英国フロリデーション協会の報告（1998 年）では、世界 36 か国で調整によるフロリデーションが実施されており、普及人口は 3 億 1700 万人である。また、天然のフロリデーション地区を持つ国も 45 か国を数え、給水人口数の把握された国々だけで、その人口は 3873 万人に及んでいる。調整によるもの、天然によるものを合わせると、世界 61 か国、3 億 5600 万人にフロリデーションは普及している。

日本国内でも、フッ化物濃度 0.65 ppm 以上の天然フロリデーション地区が 7 か所あるが、上記の集計には含まれていない。

4. 国内外の主な専門機関の見解

(1) 国際歯科連盟（FDI）の見解

国際歯科連盟（FDI）は、1964 年カリフォルニア州サンフランシスコにおいて開催された第 52 回年次総会において、フロリデーション推奨決議を採択した。その内容は以下のとおりである。

1. 歯牙う蝕症は全身的健康を阻害し、疼痛を誘発して、全世界の大多数の人が罹患する疾病である。

2. WHO、各国政府及び科学専門諸団体より招集された専門委員会によって、う蝕抑制手段としてのフロリデーションの安全性、効果及び実用性に関する科学的根拠が検討され、承認された。
3. 過去 30 年間にわたる経年的観察研究の結果、フロリデーションがう蝕抑制に対して最も効果的かつ、廉価な方法であることが確認された。したがって、以下の如く決議する。

フロリデーションは、う蝕症の発生を安全かつ経済的に抑制する手段として、現状においては最も有効な公衆衛生的施策であることを、すべての関係当局に推薦すべきことを決議する。

また、FDIは「フッ化物とう蝕」(2001年)において、フロリデーションについて「水道水からのフッ化物供給は、給水系が整備されている地域では、う蝕予防の最も効果的な公的な健康増進の手段であります。水は誰もが必要でかつ使用する食事成分のひとつであり、それで地域の全ての人々に利益をもたらすからです。この方法の運用上の唯一の制約としては、信頼でき、かつ調整可能な給水路があることです。つまり、常に集中管理された水道があることを意味しています。」と述べている。

(2) 世界保健機関 (WHO) の見解

世界保健機関(WHO)は、1969年、米国ボストン市で開催された第22回総会において、フロリデーション実施勧告決議を満場一致で決め、加盟国に対して「フロリデーションを検討し、実行可能な場合にはこれを導入すること、不可能な場合にはフッ化物の他の応用方法を検討すること」を趣旨とする勧告を行っている。その時、日本はその決議案の共同提案国だった。その後も、1975年と1978年にも、WHOは同様の決議を行い、一貫してフロリデーションの実施を推進してきた。

WHOの専門委員会報告「フッ化物と口腔保健」(1994年)によれば、「上水道が整備されている地域では、フロリデーションが地域住民全体への最も有効な方法であり、個人的または積極的な意思を必要とせずすべての社会階級の人々が利益を得られることになる。フロリデーションは、国際歯科連盟(FDI)、国際歯科研究学会(IADR)、世界保健機関(WHO)など、150を越える学術および健康に関連する組織団体から推奨されている。」と述べ、「地域におけるフロリデーションは安全かつ経済的であり、社会的に受け入れられる実施可能なところでは導入と継続が望まれる」と結論している。

(3) 日本歯科医師会の見解

日本歯科医師会は、1971年に「フッ化物に対する基本的見解」を発表し、以下のように結論している。

「フッ化物による局所的う蝕予防メカニズムで最も重要な点がエナメル質表層および歯垢中の至適濃度以上のフッ素によるものであることを考えれば、飲料水中フッ化物添加が最も有用性のあることが考えられ、次いで他の全身的应用法が挙げられよう。局所应用法については、なるべく多回数あるいは規則的に、しかも安全に應用しうるものが理論的にも有効性が強くなるであろうことが考えられる。

もしも、全身および局所应用法が併用されれば、その効果は一層増大されよう。

いずれにしても、現在、フッ化物应用到にまさるう蝕予防手段の存在しない事実からして、フッ化物によるう蝕予防の推進こそが、現時点における最良の方法であるといえよう。」

さらに、2000年12月には、「フッ化物応用(水道水へのフッ化物添加)に関する見解」を発表し、「日本歯科医師会は水道水フッ化物添加が、各種フッ化物応用の中で、有効性、安全性、至便性、経済性等に対する、公衆衛生的に優れた方法であると認識するが、水道水への添加という手

段の性格上、これらの実施は、最終的には、地方自治体の問題であり、その経過においては、地域の歯科医師会をはじめとする関連専門団体、地域住民との合意が前提であると考えている。」と結論している。

(4) 日本歯科医学会の見解

日本歯科医学会（医療環境問題検討委員会フッ化物検討部会）は、1999年に答申した「フッ化物応用のための総合的な見解」において、水道水フッ化物添加法を優れた地域保健施策として位置づけ、「国民の口腔保健向上のためのう蝕予防を目的としたフッ化物応用を推奨する。」と結論している。

(5) 日本口腔衛生学会の見解

日本口腔衛生学会は、日本歯科医師会の「フッ化物に対する基本的な見解」（1971年）を支持し、1972年に水道水フッ化物添加法の推進を表明した。1982年には「う蝕予防プログラムのためのフッ化物応用に対する見解」を公表した。

2002年9月、「今後のわが国における望ましいフッ化物応用への学術的支援」を発表し、「21世紀のわが国における国民の口腔保健の向上を図るため、専門学術団体として、フッ化物局所応用及び、水道水フッ化物添加法を推奨するとともに、それらへ学術的支援を行うことを表明いたします。」と述べている。

今回の健康しもにた21「8020」推進委員会にも、この学術的支援の一環として、日本口腔衛生学会から委員3名が派遣されている。

(6) 厚生労働省の見解

2000年11月、厚生省（現厚生労働省）が、「自治体から、水道水質基準内でのフッ化物添加について技術支援要請があれば、水道事業者、水道利用者、地元歯科医師会等の理解等を前提に、厚生科学研究の成果を活用する等により歯科保健行政の一環として応じてまいりたい。」と技術支援をすることを表明した。

5. 健康しもにた21「8020」推進委員会の結論

以上のような状況をふまえ、健康しもにた21「8020」推進委員会は、フッ化処理が、有効性、安全性、実用性において、各種フッ化物応用の中で最も優れた公衆衛生的な方法であると認識する。下仁田町においても、フッ化処理が技術的に実施可能な地域においては、住民の理解協力を得て、すみやかに実施されることを切望する。フッ化処理が実施されれば、子供から成人、高齢者、自分自身で口腔内の健康管理が十分にできない心身障害者まで、給水地域で生活する住民すべてが、その恩恵を受けることができる。さらに、フッ化処理の実施により、生涯にわたるむし歯予防対策が確立され、今後の8020運動推進のための基盤が整備されると考える。

現在では、フッ化処理に対して科学的根拠のある反対論は存在しないが、一部には感情的な反対論や科学的根拠を持たない心配論がある。フッ化処理の実施に当たっては、住民に科学的根拠に基づく正確な情報を十分に提供し、住民の理解協力を得る必要がある。今後は、下仁田町でのフッ化処理実施のために、より多くの住民から支持が得られるように、啓発活動を充実させ継続させていくことが重要である。

【主な参考文献】

1. 下仁田町：財団法人 8020 推進財団 平成 15 年度歯科保健活動助成交付申請書. 2003 年 7 月 23 日.
2. 花田信弘, 瀧口 徹, 池主憲夫, 葭内顕史, 前田 茂, 安藤雄一, 深井稔博, 小林清吾, 田口円裕, 石川清子 編：新しい時代のフッ化物応用と健康. 医歯薬出版, 2002 年.
3. WHO, 高江洲義矩 監訳：フッ化物と口腔保健 WHO のフッ化物応用と口腔保健に関する新しい見解. 一世出版, 1995 年.
4. 日本歯科医師会企画調査室：フッ化物に対する基本的見解. 1971 年.
5. 日本歯科医師会：フッ化物応用(水道水へのフッ化物添加)に関する見解. 2000 年 12 月 21 日.
6. 日本歯科医学会：フッ化物応用についての総合的な見解. 1999 年 11 月 1 日.
7. 日本口腔衛生学会フッ化物研究部会：う蝕予防プログラムのためのフッ化物応用に対する見解. 1982 年.
8. 日本口腔衛生学会：今後のわが国における望ましいフッ化物応用への学術的支援. 2002 年 9 月 13 日.

16.3.4

下仁田学習会のまとめ

16.2.6
H16年1月30日/31日

次の質問にお答えください。番号を一つ選び○をつけて下さい。

- 1) フッ素は自然界に存在していると思いますか。
1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 2) フッ素は海水に存在していると思いますか。
1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 3) フッ素は食品の中に含まれていると思いますか。
1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 4) フッ素入り歯磨き剤を知っていますか。
1 はい 2 いいえ
- 5) フッ素洗口を知っていますか。
1 はい 2 いいえ
- 6) フロリデーション (水道水フッ素濃度調整) を知っていますか。
1 はい 2 いいえ
- 7) フッ素の予防法はむし歯を防ぐ効果があると思いますか。
1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 8) フッ素の予防法は高齢者の歯の健康に効果があると思いますか。
1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 9) フロリデーション (水道水フッ素濃度調整) のフッ素濃度 (ppm) は次のどれですか。
1 0.1~0.3 2 0.6~0.8 3 1.5~1.7
- 10) フロリデーション (水道水フッ素濃度調整) は安全であると思いますか。
1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 11) フロリデーション (水道水フッ素濃度調整) の一人あたりの費用は次のどれですか。
1 100円 2 1000円 3 10000円
- 12) フロリデーション (水道水フッ素濃度調整) などのフッ素利用を認めている世界の専門団体のおおよその数は次のどれですか。
1 15 2 50 3 150

本日は御苦勞さまでした。ありがとうございました。

みんなですすめる健康づくり

健康しもにた21

健康日本21下仁田町計画

健やか親子21下仁田町計画

健康しもにた21基本方針

1. 積極的な健康づくりの推進（一次予防の重視）

「健康はつくるもの」という視点に立ち積極的な健康づくりを推進します。

2. 目標と対策の設定

健康づくりを達成させるための目標の設定と、町全体で取り組むべき具体的な対策を設定しました。

3. 健康づくり支援のための環境づくり

健康づくりに対する意志や意欲を高めるための普及啓発活動、主体的な健康づくり活動を社会全体として支援する環境づくりを推進します。

4. 多様な組織との連携

健康づくりのために保健事業を充実させることはもちろん、学校、地域の企業、医療機関、保健福祉関連施設、地域ボランティア等の連携を図ります。

変化する社会情勢の中で、かけがえのない下仁田町の子どもが健やかに育ち、青壮年期は社会の主人公として活躍し、高齢者は生き生きと生活を楽しみ、心身ともに豊かな生活ができる地域社会を目指して2010年を目標年度とした計画を策定いたしました。

今後は、この計画に基づき、住民の皆様や関係機関との密接な連携により健康づくり活動に取り組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2002年11月

下仁田町長 金井 康行

2002年11月
甘楽郡下仁田町

健康しもにた7カ条

自分自身の生活をもう一度見つめ直し、家族みんなで健康づくりについて学習しましょう。

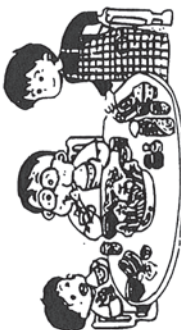
- 1. 健康は家族そろって楽しい食事から（栄養・食生活）**
 - ・朝食は抜かず、3食をしっかりととりましょう
 - ・薄味の食事で減塩にとりくみましょう
- 2. 楽しく運動習慣を身につけよう（身体活動・運動）**
 - ・自分にあった運動を生活に取り入れましょう
 - ・運動は無理なく長く続けましょう
- 3. やすらぎとゆとりあるこころの健康づくりに努めましょう（休養・こころの健康づくり）**
 - ・自分にあったストレス解消法をみつけましょう
 - ・こころに悩みをもった時は、誰かに相談しましょう
- 4. 健康のため、吸いすぎ、飲みすぎに気をつけて（たばこ・アルコール）**
 - ・未成年者の喫煙・飲酒は家庭や地域で防ぎましょう
 - ・分煙・禁煙を実践しましょう
 - ・休肝日をつくりましょう
- 5. いつまでも自分の歯、「8020」を目指しましょう（歯の健康）**
 - ・効果的なフッ化物物の利用でむし歯を予防しましょう
 - ・正しい歯みがきで歯周病を予防しましょう
 - ・おやつやのダラダラ食いをやめましょう
 - ・年1回は歯科検診を受けましょう
- 6. 受けよう健康診断（検診）、きちんと治療（糖尿病・循環器病・がん）**
 - ・定期的に自分の健康状態を知りましょう
 - ・病気と上手に付き合いつながりながら生き生きと元気に暮らしましょう
- 7. 心身ともに健やかな下仁田子子を育てましょう（母子保健）**
 - ・子どもの頃から生命の大切さについて伝えましょう
 - ・育児の相談相手を持ちましょう
 - ・地域ぐるみで子どもを育てましょう

（「健康しもにた21」より） 健康しもにた21検討委員会 作成

このパンフレットについてのお問い合わせ

下仁田町保健センター

〒370-2601 下仁田町大字下仁田111-2
電話 0274-82-5490 FAX 0274-70-3013
e-mail shimohc@soeinet.or.jp



みんなが進める健康づくり

「健康日本21」下仁田町計画の9つの領域と、「健やか親子21」下仁田町計画の基本方針を定めました。

「健康しもにた21」は、国が定めた「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」とその一環である「健やか親子21」の運動を推進するための地方計画です。

それぞれの領域の主な現状値と目標値

栄養・食生活

1. 塩分のとりすぎによる健康への影響についての知識の普及
2. バランスのとれた食生活の実践
3. 望ましい食生活を普及する組織の育成

- 1人1日あたりの食塩摂取量の減少
現状値：12.4g → 目標値：10g未満
- バランスの取れた食事を食べる人の増加
現状値：41.4% → 目標値：80%以上

身体活動・運動

1. 運動が与える健康への影響についての知識の普及
2. 自分にあった運動を地域ぐるみで推進
3. 運動する仲間づくり

- 週1日以上運動する人の増加
目標値
現状値
男性41.5% → 男性52%以上
女性46.4% → 女性57%以上

気候・心の健康づくり

1. こころの健康についての知識の普及
2. 積極的なこころの健康づくり
3. こころの病気の早期対応
4. こころの健康支援のための体制づくり

- 大いにある程度ストレスを感じる人の割合
現状値：57.8% → 目標値：47%以下
- ストレス解消法がある人が増加
現状値：66.9% → 目標値：72%以上

たばこ

1. たばこ健康についての知識の普及
2. 未成年の喫煙防止（防煙）
3. 禁煙希望者に対する支援
4. 受動喫煙の害を減少させるための環境づくり（分煙）

- 喫煙している未成年者の減少
現状値：高校生男子53.9% → 目標値：0%
高校生女子26.8% → 目標値：0%

アルコール

1. アルコールと健康についての知識の普及
2. 未成年者の飲酒防止対策を地域ぐるみで実施
3. 多量飲酒による問題の早期対応

- 未成年者の飲酒の減少
現状値：高校生男子75.7% → 目標値：0%
高校生女子75.6% → 目標値：0%

歯の健康

1. 歯の健康についての知識の普及
2. むし歯予防対策の推進
3. 歯周病予防対策の推進

- 12歳児の1人平均むし歯本数の減少
現状値：2.8本 → 目標値：1本以下
- 小中学生のフッ化物洗口実施者の増加
現状値：46.3% → 目標値：80%以上

糖尿病

1. 糖尿病予防の知識の普及と正しい生活習慣の実践
2. 糖尿病を悪化させないための早期発見・早期治療
3. 生涯にわたる糖尿病対策を地域ぐるみで実施

- 結果説明会に参加する人の増加
現状値：39.4% → 目標値：80%以上
- 糖尿病友の会の会員の参加率の増加
現状値：30%程度 → 目標値：40%以上

循環器病

1. 循環器病を予防するための知識の普及
2. 基本健康診査の受診率の向上
3. 医療機関を受診している人たちへの支援

- 基本健康診査受診率の向上
現状値：78.0% → 目標値：現状維持

がん

1. がん予防のための知識の普及
2. がん検診の受診率向上

- がん検診受診率の向上
現状値
胃がん検診 42% → 52%以上
大腸がん検診 47% → 57%以上
子宮がん検診 39% → 49%以上
目標値

母子保健

1. こどもの心と体の健やかな発達についての知識の普及
2. 育児不安の軽減と子育て環境の整備
3. 地域ぐるみで子育て支援

- 子育てに困難を感じる母親の減少
現状値：33.1% → 目標値：15%以下
- 子どもとよく遊ぶ父親の増加
現状値：38.1% → 目標値：80%以上



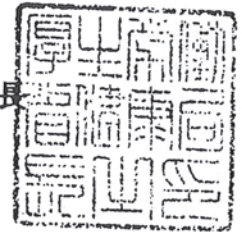
医政発第0114002号
健発第0114006号
平成15年1月14日

各都道府県知事 殿

厚生労働省医政局長



厚生労働省健康局長



フッ化物洗口ガイドラインについて

健康日本 21 における歯科保健目標を達成するために有効な手段として、フッ化物の応用は重要である。

我が国における有効かつ安全なフッ化物応用法を確立するために、平成 12 年から厚生労働科学研究事業として、フッ化物の効果的な応用法と安全性の確保についての検討が行われたところであるが、この度、本研究事業において「フッ化物洗口実施要領」を取りまとめたところである。

については、この研究事業の結果に基づき、8020 運動の推進や国民に対する歯科保健情報の提供の観点から、従来のフッ化物歯面塗布法に加え、より効果的なフッ化物洗口法の普及を図るため、「フッ化物洗口ガイドライン」を別紙の通り定めたので、貴職におかれては、本ガイドラインの趣旨を踏まえ、貴管下保健所設置市、特別区、関係団体等に対して周知方お願いしたい。

フッ化物洗口ガイドライン

1. はじめに
2. 対象者
 - 1) 対象年齢
 - 2) う蝕のリスクの高い児への対応
3. フッ化物洗口の実施方法
 - 1) 器材の準備、洗口剤の調整
 - 2) 洗口練習
 - 3) 洗口の手順
 - 4) 洗口後の注意
4. 関連事項
 - 1) フッ化物洗口法と他のフッ化物応用との組み合わせ
 - 2) 薬剤管理上の注意
 - 3) インフォームド・コンセント
 - 4) フッ化物洗口の安全性
5. 「う蝕予防のためのフッ化物洗口実施マニュアル」

1. はじめに

フッ化物応用によるう蝕予防の有効性と安全性は、すでに国内外の多くの研究により示されており、口腔保健向上のためフッ化物の応用は、重要な役割を果たしている。

わが国においては、世界保健機関(WHO)等の勧告に従って、歯科診療施設等で行うフッ化物歯面塗布法、学校等での公衆衛生的応用法や家庭で行う自己応用法であるフッ化物洗口法というフッ化物応用によるう蝕予防が行われてきた。特に、1970年代からフッ化物洗口を実施している学校施設での児童生徒のう蝕予防に顕著な効果の実績を示し、各自治体の歯科保健施策の一環として、その普及がなされてきた。

そのメカニズムに関しても、近年、臨床的う蝕の前駆状態である歯の表面の脱灰に対して、フッ化物イオンが再石灰化を促進する有用な手段であることが明らかになっており、う蝕予防におけるフッ化物の役割が改めて注目されている。

こうした中、平成11年に日本歯科医学会が「フッ化物応用についての総合的な見解」をまとめたことを受け、平成12年度から開始した厚生労働科学研究において、わが国におけるフッ化物の効果的な応用法と安全性の確保についての研究(「歯科疾患の予防技術・治療評価に関するフッ化物応用の総合的研究」)が行われている。

さらに、第3次国民健康づくり運動である「21世紀における国民健康づくり運動」(健康日本21)においても歯科保健の「8020運動」がとりあげられ、2010年までの目標値が掲げられている。これらの目標値達成のための具体的方策として、フッ化物の利用が欠かせないことから、EBM(Evidence Based Medicine)の手法に基づいたフッ化物利用について、広く周知することは喫緊の課題となっている。

このような現状に照らし、従来のフッ化物歯面塗布法に加え、より効果的なフッ化物洗口法の普及を図ることは、「8020」の達成の可能性を飛躍的に高め、国民の口腔保健の向上に大きく寄与できると考えられ、上記の厚生労働科学研究の結果を踏まえ、最新の研究成果を盛り込んだフッ化物洗口について、その具体的な方法を指針の形として定め、歯科臨床や公衆衛生、地域における歯科保健医療関係者に広く周知することとした。

2. 対象者

フッ化物洗口法は、とくに、4歳児から14歳までの期間に実施することがう蝕予防対策として最も大きな効果をもたらすことが示されている。また、成人の歯頸部う蝕や根面う蝕の予防にも効果があることが示されている。

1) 対象年齢

4歳から成人、老人まで広く適用される。特に、4歳(幼稚園児)から開始し、14歳

(中学生)まで継続することが望ましい。その後の年齢においてもフッ化物は生涯にわたって歯に作用させることが効果的である。

2) う蝕の発生リスクの高い児(者)への対応

修復処置した歯のう蝕再発防止や歯列矯正装置装着児の口腔衛生管理など、う蝕の発生リスクの高まった人への利用も効果的である。

3. フッ化物洗口の実施方法

フッ化物洗口法は、自らでケアするという点では自己応用法(セルフ・ケア)であるが、その高いう蝕予防効果や安全性、さらに高い費用便益率(Cost-Benefit Ratio)等、優れた公衆衛生的特性を示している。特に、地域単位で保育所・幼稚園や小・中学校で集団応用された場合は、公衆衛生特性の高い方法である。なお、集団応用の利点として、保健活動支援プログラムの一環として行うことで長期実施が確保される。

1) 器材の準備、洗口剤の調製

施設での集団応用では、学校歯科医等の指導のもと、効果と安全性を確保して実施されなければならない。

家庭において実施する場合は、かかりつけ歯科医の指導・処方を受けた後、薬局にて洗口剤の交付を受け、用法・用量に従い洗口を行う。

2) 洗口練習

フッ化物洗口法の実施に際しては、事前に水で練習させ、飲み込まずに吐き出せさせることが可能になってから開始する。

3) 洗口の手順

洗口を実施する場合は、施設職員等の監督の下で行い、5～10mlの洗口液で約30秒間洗口(ブクブクうがい)する。洗口中は、座って下を向いた姿勢で行い、口腔内のすべての歯にまんべんなく洗口液がゆきわたるように行う。吐き出した洗口液は、そのまま排水口に流してよい。

4) 洗口後の注意

洗口後30分間は、うがいや飲食物をとらないようにする。また、集団応用では、調整した洗口液(ポリタンクや分注ポンプ)の残りは、実施のたびに廃棄する。家庭用専用瓶では、一人あたり約1か月間の洗口ができる分量であり、冷暗所に保存する。

4. 関連事項

1) フッ化物洗口法と他のフッ化物応用との組み合わせ

フッ化物洗口法と他の局所応用法を組み合わせる実施しても、フッ化物の過剰摂取になることはない。すなわちフッ化物洗口とフッ化物配合歯磨剤及びフッ化物

歯面塗布を併用しても、特に問題はない。

2) 薬剤管理上の注意

集団応用の場合の薬剤管理は、歯科医師の指導のもと、歯科医師あるいは薬剤師が、薬剤の処方、調剤、計量を行い、施設において厳重に管理する。

家庭で実施する場合は、歯科医師の指示のもと、保護者が薬剤を管理する。

3) インフォームド・コンセント

フッ化物洗口を実施する場合には、本人あるいは保護者に対して、具体的方法、期待される効果、安全性について十分に説明した後、同意を得て行う。

4) フッ化物洗口の安全性

(1) フッ化物洗口液の誤飲あるいは口腔内残留量と安全性

本法は、飲用してう蝕予防効果を期待する全身応用ではないが、たとえ誤って全量飲み込んだ場合でもただちに健康被害が発生することはないと考えられている方法であり、急性中毒と慢性中毒試験成績の両面からも理論上の安全性が確保されている。

①急性中毒

通常の方法であれば、急性中毒の心配はない。

②慢性中毒

過量摂取によるフッ化物の慢性中毒には、歯と骨のフッ素症がある。歯のフッ素症は、顎骨の中で歯が形成される時期に、長期間継続して過量のフッ化物が摂取されたときに発現する。フッ化物洗口を開始する時期が4歳であっても、永久歯の歯冠部は、ほぼできあがっており、口腔内の残留量が微量であるため、歯のフッ素症は発現しない。骨のフッ素症は、8ppm以上の飲料水を20年以上飲み続けた場合に生じる症状であるので、フッ化物洗口のような微量な口腔内残留量の局所応用では発現することはない

(2) 有病者に対するフッ化物洗口

フッ化物洗口は、うがいが適切に行われる限り、身体が弱い人や障害をもっている人が特にフッ化物の影響を受けやすいということはない。腎疾患の人にも、う蝕予防として奨められる方法である。また、アレルギーの原因となることもない。骨折、ガン、神経系および遺伝系の疾患との関連などは、水道水フッ化物添加 (Fluoridation) 地域のデータを基にした疫学調査等によって否定されている。

5. 「う蝕予防のためのフッ化物洗口実施マニュアル」

フッ化物応用に関する、より詳細な情報については、厚生労働科学研究「フッ化物応用に関する総合的研究」班が作成した「う蝕予防のためのフッ化物洗口実施マニュアル」を参照されたい。

一生自分の歯で食べるには、

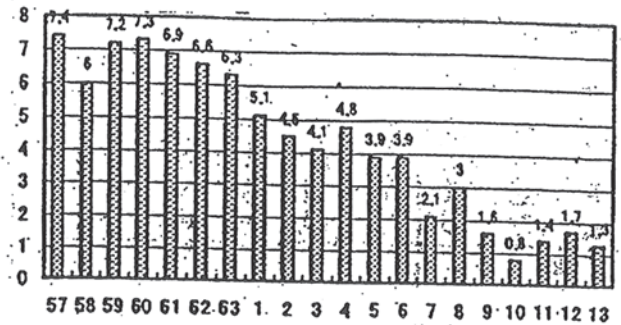
まずむし歯予防から！

☆知っていますか？

下仁田町の皆さんの
お口の中のこと

◎フッ素塗布により3歳児のむし歯が減少し
むし歯0のお子さんが70%以上になりました

3歳児平均むし歯本数



◎フッ素洗口により小学校低学年では永久歯
のむし歯が減少しています。しかし高学年
から中学生にかけて急増しています。また
6年生では60%以上、中学3年生では80%
以上がむし歯になっています。

下仁田町の小中学生の一人当たり永久歯むし歯本数 (本)

学年	小学生						中学生		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
9	0.07	0.18	0.68	1.28	2.39	2.88	3.49	5.08	4.78
10	0.06	0.23	0.24	0.98	1.50	2.42	3.32	4.25	6.41
11	0.02	0.08	0.35	0.42	1.44	1.82	3.39	4.55	4.88
12	0.08	0.31	0.21	0.86	0.61	2.18	2.46	3.80	5.52
13	0.07	0.21	0.32	0.35	1.14	1.08	2.79	3.34	4.90

◎42歳・50歳の人の健康な歯はおよそ10本で
ほとんどの人に歯肉炎・歯周炎があります。

平成13年度成人歯科・歯肉の状況

42歳・50歳 受診者数	人	%
健康な歯肉	7	6.4
軽度歯肉炎	10	9.2
歯肉炎	72	66.1
歯周炎	20	18.3

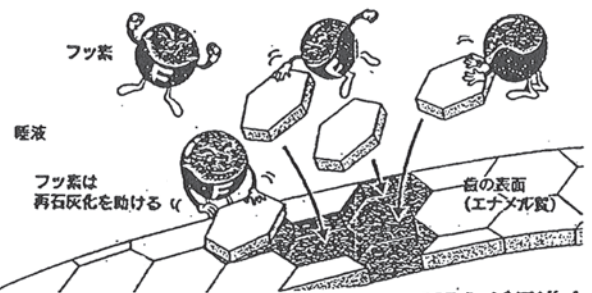
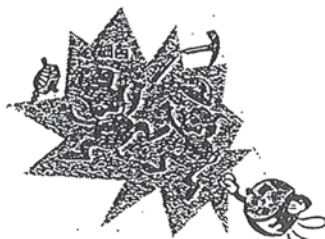
平成13年度成人歯科検診・むし歯(本)

年齢	42歳	50歳
受診者数	51人	73人
健全歯数	11.23本	10.36本
むし歯(D)	0.72	1.3
喪失歯(M)	1.86	3.61
処置歯(F)	14.74	13.69

☆知っていますか？

歯の質を強くする
フッ素の効果

- ◎歯のエナメル質を酸にとけにくくする
- ◎酸をつくる細菌(むし歯菌)の力を抑える
- ◎再石灰化を助ける



★フッ素が唾液中に存在することで、再石灰化が促進されます

数値目標一覧

☆下仁田町の数値目標は、健康しもにた21検討委員会で検討し設定されました。

☆下仁田町の現状値は、各種健診結果、「平成13年度下仁田町子育てアンケート」及び「平成13年度下仁田町健康生活アンケート」等の各種調査結果から得られたものです。

【1】健康しもにた21

1) 栄養・食生活

評価指標	健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
	現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
一人1日あたりの食塩摂取量	12.4g	10g未満	13.6g	10g未満	13.5g	10g未満
ヘルスサポーター	20人	200人	-	-	-	-
栄養成分表示する飲食店	5% (2店)	100% (40店)	-	-	-	-
朝食欠食者	20歳代 30歳代	44.6% 32.9%	20%以下 15%以下	-	-	-
親と子の料理教室参加者	117人	100% (1延べ)	-	-	-	-
主食、主菜、副菜をそろえた食事を食べる人	41.4%	80%以上	-	-	-	-

2) 身体活動・運動

評価指標	健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
	現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
週1日以上運動する人	男性 女性	41.5% 46.4%	50%以上 50%以上	-	-	28.6% 39%以上 24.6% 35%以上
自分にあった運動を知り実行できる人	男性 女性	32.2% 65.0%	40% 70%	-	-	-
生命の貯蓄体操を行う人(生命の貯蓄体操会員数)	260人	400人	-	-	-	-

3) 休養・こころの健康

評価指標	健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
	現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
ストレスを感じる人	57.8%	47%以下	61.5%	55%以下	54.6%	49%以下
睡眠を十分にとれない人	9.8%	6%以下	22.0%	20%以下	23.1%	21%以下
ストレス解消法がある人	男性 女性 全体	61.6% 72.1% 66.9%	67%以上 77%以上 72%以上	-	-	-

4) たばこ

評価指標	健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
	現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
喫煙者	成人	31.5%	11%以下	-	-	-
喫煙している未成年者	男性(中1) 男性(高3) 女性(中1) 女性(高3)	- - - -	0% 0% 0% 0%	20.1% 53.9% 9.2% 26.8%	0% 0% 0% 0%	7.5% 39.6% 3.8% 15.6%
喫煙防止教育を実施する学校	小学校 中学校 高等学校	100% 100% -	100% 100% 100%	58.1% 90.4% 92.3%	100% 100% 100%	- - -
分煙を実施する場所	公共の場 行政機関	- -	100% 100%	57.8% 50.5%	100% 100%	- -
禁煙希望者	48.0%	58%以上	-	-	-	-

5) アルコール

評価指標		健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
		現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
未成年の飲酒者	男性(中3)	-	0%	26.8%	0%	25.4%	0%
	男性(高3)	-	0%	75.7%	0%	51.5%	0%
	女性(中3)	-	0%	23.6%	0%	17.2%	0%
	女性(高3)	-	0%	75.6%	0%	35.9%	0%
多量飲酒者	男性	18.7%	15%以下	8.9%	7.1%以下	4.1%	3.2%以上
	女性	0.9%	0.7%以下	-	-	0.3%	0.2%以上

6) 歯の健康

評価指標		健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
		現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
12歳児の1人平均むし歯本数		2.8歯	1歯以下	2.9歯	1歯以下	2.9歯	1歯以下
小中学生のフッ化物洗口実施者	小中学生	46.3%	80%以上	-	50%以上	-	-
定期的に歯石除去や歯磨き指導を受けている人	成人	38.9%	50%以上	7.8%	30%以上	15.9%	30%以上
進行した歯周炎に罹っている人	40歳代	14.0%	8%以下	31.2%	22%以下	32.0%	22%以下
	50歳代	17.0%	12%以下	40.0%	30%以下	46.9%	33%以下
フッ化物がむし歯予防に効果があることを知っている人		74.9%	100%	-	-	-	-

7) 糖尿病

評価指標		健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
		現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
基本健康診査受診者		78.0%	現状維持	62.4%	-	-	-
基本健康診査後結果説明会に参加する人		39.4%	現状維持	-	-	-	-
糖尿病友の会の会員数		122人	150人以上	-	-	-	-
糖尿病友の会員の参加率		30%程度	40%以上	-	-	-	-

8) 循環器病

評価指標		健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
		現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
基本健康診査受診者		78.0%	現状維持	62.4%	-	-	-

9) がん

評価指標		健康しもにた21		元気県ぐんま21		健康日本21	
		現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
がん検診受診者	胃がん	42.1%	60%以上	17.4%	-	1401万人	2100万人以上
	大腸がん	47.3%	60%以上	17.5%	-	1231万人	1850万人以上
	子宮がん	39.0%	60%以上	18.6%	-	1241万人	1860万人以上
	乳がん	41.5%	60%以上	20.4%	-	1064万人	1600万人以上
	甲状腺がん	41.5%	60%以上	-	-	-	-
節目健診の受診率	40歳.50歳	38.7%	50%	-	-	-	-

【2】 健やか親子21

1) 乳幼児期

評価指標	下仁田町		群馬県		国	
	現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
母乳栄養育児	54.1%	65%以上	—	—	44.8%	増加傾向 ↑
乳児健診で栄養相談を利用する保護者 家族そろって食事をする家庭	71.3%	80%以上	—	—	—	—
おやつを1日2回以内に行っている幼児 赤ちゃん体操を実行している親子	調査予定	80%以上	—	—	—	—
ちびっ子リズム教室に参加する親子	集計中	80%以上	—	—	—	—
子どもとよく遊ぶ父親	年間延べ474人	年間延べ800人	—	—	—	—
子どもとよく遊ぶ父親	38.1%	80%以上	—	—	49.4%	増加傾向 ↑
安心して遊ぶ場所があると答える保護者 育児が楽しいと感じる母親	32.5%	60%以上	—	—	—	—
子育てに困難を感じる母親	調査予定	80%以上	—	—	—	—
子育てに自信がもてない母親	33.1%	15%以下	—	—	—	—
子育てに自信がもてない母親	27.5%	15%以下	—	—	27.4%	減少傾向 ↓
育児について相談相手がいる保護者	97.5%	現状維持	—	—	99.2%	増加傾向 ↑
よく育児をする父親	32.8%	60%以上	—	—	37.4%	増加傾向 ↑
よく家事をする父親	13.9%	50%以上	—	—	—	—
母親の精神的な支えになる父親	57.6%	80%以上	—	—	—	—
自分の子どもをかわいくないと思ったこと のある親	34.1%	0%	—	—	—	—
ゆったりとした気分で子どもと過ごす時間 のある母親	60.9%	80%以上	—	—	68.0%	増加傾向 ↑
3歳児1人平均むし歯保有率	26.3%	10%以下	—	—	—	—
3歳児1人平均むし歯本数	1.25歯	1.0以下	—	—	—	—
幼児検診フッ素塗布率	83.4%	95%以上	—	70%以上	—	—
3歳児フッ素塗布率	91.2%	95%以上	—	70%以上	—	—
保育園のフッ素洗口実施率	96.2%	95%以上	—	—	—	—
事故防止対策を実施している家庭	48.7%	80%以上	—	—	1.6ヶ月児: 4.2% 3歳児: 1.8%	100%
小児の心肺蘇生法を実施できる人	14.9%	50%以上	—	—	1.6ヶ月児: 19.8% 3歳児: 21.3%	100%
乳幼児突然死症候群の関連要因を知っ ている人	27.2%	80%以上	—	—	—	—
夜間休日の小児救急医療機関を知って いる人	51.7%	80%以上	—	—	1.6ヶ月児: 86.6% 3歳児: 88.8%	100%
かかりつけの小児科医がいる人	60.3%	80%以上	—	—	81.7%	100%
乳児死亡率	0	0	—	—	3.2	世界最高 を維持
乳幼児健康診査に満足する人	67.6%	80%以上	—	—	—	—
乳児健診受診率	84.5%	95%以上	—	—	—	—
幼児健診受診率	81.2%	95%以上	—	—	—	—
1.6歳児健診受診率	75.0%	95%以上	—	—	—	—
3歳児健診の受診率	93.4%	100%	—	—	—	—
1.6歳までにBCG接種を終了している児	82.1%	95%以上	—	—	—	—
1.6歳までに麻疹接種を終了している 児	34.3%	95%以上	—	—	70.4%	95%
1.6歳までに三種混合の接種を終了して いる児	53.7%	95%以上	—	—	87.5%	95%

2) 学童・思春期

評価指標	下仁田町		群馬県		国		
	現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年	
ローレル指数160以上の小学生	男子	9.4%	5%以下	—	—	—	—
	女子	4.3%	4.3%以下	—	—	—	—
ローレル指数160以上の中学生	男子	12.3%	5%以下	—	—	—	—
	女子	17.1%	8%以下	—	—	—	—
親と子の料理教室参加者	117人	延べ1000人	—	—	—	—	
栄養成分表示をする飲食店	5.0%	100%	—	—	—	—	
性教育を行う学校	100%	100%	—	—	—	—	
不登校の生徒	6人	20	—	—	—	—	
親子の対話のある家庭	調査予定	80%以上	—	—	—	—	
何でも相談できる人がいる生徒	調査予定	80%以上	—	—	—	—	
禁煙教育を行う学校	小学校	100%	100%	51.8%	100%	—	—
	中学校	100%	100%	90.4%	100%	—	—
	高校	—	60%	92.3%	100%	—	—
未成年の飲酒者	男性(中3)	—	0%	26.8%	0%	25.4%	0%
	男性(高3)	—	0%	75.7%	0%	51.5%	0%
	女性(中3)	—	0%	23.6%	0%	17.2%	0%
	女性(高3)	—	0%	75.6%	0%	35.9%	0%
小中学生のフッ素洗口実施率	46.3%	80%以上	—	50%以上	—	—	
12歳児の1人平均むし歯本数	2.8歯	1歯以下	2.9歯	1歯以下	2.9歯	1歯以下	
小中学生で過去1年間に個別歯磨き指導を受けたことのある人	調査予定	50%以上	—	—	—	—	

3) 妊娠・出産期

評価指標	下仁田町		群馬県		国	
	現状	2010年	現状	2010年	現状	2010年
妊娠出産に満足している母親	80.0%	80%以上	—	—	—	—
低出生体重児	10人	4人以下	—	—	8.6%	減少傾向へ
マタニティーブルーを経験する産婦	45.0%	20%以下	—	—	—	—
心身共に快調な状態にある父母	父親	59.3%	80%以上	—	—	—
	母親	54.6%	80%以上	—	—	—
たばこを吸う父母	父親	55.0%	20%以下	—	—	—
	母親	12.0%	5%以下	—	—	—